学びは常に玉川の丘に用意されています。
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

生涯学べ 第19回

地域を活気づけるスペースに

亀山多恵子 ギャラリー「ソフィア麻布」主宰

2008年通信教育部で学芸員資格、学士学位取得（卒業）

2009

4年間、通信教育部で学び、学芸員資格と学士を取得。2008年9月に取得したが、卒業式に出席したかったので、09年3月の卒業式に参列した

2011

ギャラリーをオープンした翌月、「ワンデイ・フェスタ」のイベントを開催。手作り教室、カメラマンによるワンポイント・レッスンのコーナーなど

学芸員の資格を取ろうと思ったのは四〇代半ば。二人の子どもが中学、高校へ進み、私も再就職して数年経った頃でした。もともと美術が好きで絵も描いていたので、もっと美術の本質を学びたいと考え、二〇〇四年に玉川大学の通信教育部へ入学。仕事との両立は大変だったけれど、勉強は本当に楽しかったです。

顧みれば、いつも〝居場所〟を探していたような気がします。結婚前は幼稚園に勤め、子どもとふれあう仕事に喜びもありましたが、出産後は子育てに専念。懸命になるあまり自分を見失うこともあって、そんなときは世間から取り残される気がしました。パソコンを学んで事務職に就き、仕事は面白かったけれど、そこも居場所ではないと感じていたのでしょう。結局、学芸員の資格と学位の取得後、仕事は辞めました。

二〇〇八年、卒業後すぐ「玉川大学キュレーターズ」へ入会。学習会に参加すると、先輩たちは知識が豊富で、自分がいかに勉強不足かを思い知らされました。学芸員の資格を取ったことで満足していたけれど、実は「今からが学びの始まり」と気づいたのです。

それから二年後、義母が所有する港区南麻布のビルの地下に二つのスペースが空き、夫と話し合って、「文化的な空間にしよう」とギャラリーをつくることに。二〇一一年一月に「ソフィア麻布」をオープンさせたのです。

このあたりは工場やビルが並び、麻布十番商店街のにぎわいから離れて人通りも少ない地域。少しでも活気ある場になればと、教室やワークショップを開きたい方も募集すると、女性のアーティストが揃いました。石鹸や果物などに繊細な彫刻を施すカービングや、羊毛フェルトで動物を作る教室。私も手芸サークルを始めました。

地域の人に楽しんでもらえる文化の場を創り そこから広がっていく人の輪を大切にしたい

2012

好きな手芸を活かし、バッグやカレンダーなど、毎日をちょっとでも楽しく過ごせるような物を作る手芸サークル「まいちょび」で教える

2012

地域の人に落語を楽しんでほしいと、木戸銭1,000円で招く手作りの「麻布寄席」。2回目から立川三四楼と弟弟子の立川幸之進も出演し、3回目の12月には楽屋との掛け合いで観客が沸いた

さらに街を活性化させたいという思いから、昨年七月に始めたのが「麻布寄席」。私も落語が好きなので、ここで開けたらいいなと思っていました。かつて麻布には寄席がたくさんあり、落語を楽しむ文化も引き継がれているのです。

とはいえ、噺家さんへの伝手はなく、インターネットで立川三四楼さんのブログを見つけました。立川流一門は落語協会を脱会してから定席には出られず、二つ目の若手である三四楼さんは仕事の場を求めていたのです。「どこへでも行きます」と書かれていたので、試しにメールしてみたら、すぐ訪ねてきてくださいました。

私の思いを伝えると快く引き受けてくださり、高座を作るところから準備を始めました。レンタルは高額なので、会議用机の脚を畳んで重ね、ベニヤ板を載せて、お雛さまの赤い毛氈を掛けます。義弟は江戸指物師なので高座に続く階段を作り、書道が得意な妹は「めくり」を書いてくれました。

キュレーターズで落語に詳しい方も近所にお住まいで、チラシの文章など細かくアドバイスしてくださいます。私は近所を駆けまわり、チラシをポストへ配ったり、町内会の回覧板に入れてもらったりしてお知らせしました。

寄席初日は満席で、立川さんも熱気に圧倒されたようです。一人で来られる年配の男性が多く、寄席も回を重ねるうち、「楽しみにしてたんだ」と訪れる方もいて、お出迎えする気持ちも弾みます。

寄席をきっかけに、役者を目指す方がスペースを利用してくれたり、近くで個展をしていたアーティストと出会い、作品をギャラリーに置くようにもなりました。制作だけで食べていくのは難しいと聞き、何か協力できることがあればと教室へ来る方たちに見てもらおうと思ったのです。

若い人が頑張ってる姿を見ると応援したくなる。いずれはうちでも個展を開き、有名になってくれたら嬉しい。そうした人の輪が広がれば、自分にも次のステージが待っているような気がするのです。

玉川大学キュレーターズの活動

玉川大学通信教育部の学芸員課程の修了者有志によって、1993年に発足した自主学習団体。今年度で20年目を迎え、現在、会員は約90名。学芸員資格取得者および取得予定者で組織される。

主な年間活動行事には、「総会」「研究・活動発表会」「学習会」があり、美術館・博物館の見学や講演会などの「学習会」は年2回程度開催。さらに分科会では、研究テーマを共有する3名以上の会員が自主学習活動を行い、ブディスト・アート研究会、浮世絵愛好会、博物学を学ぶミュゼオロジー研究会、西洋美術研究会がある。

会報『たまゆに』を年2回程度、研究・活動発表論文集『學藝』を年1回発行。入会随時受付。入会費1,000円、年会費5,000円。

玉川大学キュレーターズ事務局
tama_uni@yahoo.co.jp

2012年2月、「ソフィア麻布」を会場に、建築家・井口勝文氏を招いたキュレーターズの学習会。イタリアの古民家修復についての講演

ギャラリー「ソフィア麻布」
東京都港区南麻布1-15-5-1001（B1） ☎03-6806-5688

取材・文／歌代幸子